

令和3年 11月 30日

令和3年度 第8号

学校だより 12月

自分大好き みんな大好き ひとみ かがやく 西が岡の子

横浜市立西が岡小学校 泉区西が岡 3-12-11 TEL814-3603
<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/sch/es/nishigaoka/>

異学年交流による子どもの育ち

校長 佐藤 裕二

緊急事態宣言中は、横浜市のガイドラインにより、児童生徒の活動単位は学級単位とし、学年や学校全体での活動はできませんでした。そのため、以前行われてきた様々な教育活動が制限されました。現在は、市から具体的に示された感染症対策（運動会は原則食事を伴わない等）を徹底した上で、方法等を工夫して実施できるようにガイドラインも改訂されています。これによって、感染症対策を行いつつも、学年を超えて異学年児童が関われるような教育活動が実施されています。

11月25日（木）には、1・2年生のズーラシア合同遠足に付き添いました。これまでも合同で遠足へ行っていましたが、今年度は初めて1・2年生混合グループで園内見学をするように計画しました。そのために1カ月ほど前から、まずは国語の劇発表の見合いから始まり、たてわりグループの児童同士が直接関われるような機会を繰り返しもつことにより、遠足当日までにはお互いをずいぶん理解できるようになっていました。そして遠足当日、2年生は常にグループの1年生を気遣いながら、活動することができていました。1年生も2年生の話をしっかりと聞き、離れないように広い園内をグループ行動しました。その姿には、同学年グループだけでは実現しづらいようなそれぞれの子どもの育ちがありました。



また、遠足へ出発する時には、5・6年生が校庭に花道をつくり笑顔で見送ってくれました。聞くと、「自分たちも上級生にやってもらったから。」とのこと。今回の遠足で、1年生は「2年生になったら遠足で1年生をリードしてあげたい。」と思うかもしれませんし、2年生も「高学年になったら下級生を笑顔で見送りたい。」と思うかもしれません。

先日行われた運動会について、終了後に複数の職員が「練習で他の学年に見てもらった時から子どもたちの意識が変わった。」という話をしていました。新型コロナウイルスの影響で、異学年交流ができない時期を経験したからこそ、その教育的効果の大きさをを感じる今日この頃です。